

「描く」「書く」を極め、その先の「かく」を拓く

薄い本

Wacom Story Book

Issue 2

My Journey at Wacom



Cover Art_日比野 茂木 (Wacom) 『薄い本』

Editorial Team : Akiko Okuyama (Wacom), Emiko Yoshikawa (Wacom)
Design : Naoki Cross (grok Design)

wacom

はじめに

Akiko Okuyama 奥山 晶子 — VP, Head of HR Japan, Taiwan & Korea

この本を世に出すにあたり、本当に悩みました。

何を伝えれば、ワコムの価値の源泉である、ユニークでかけがえのないチームメンバーのことを読者の皆さんに知っていただくことができるのであろうかと。

主旨に賛同してくださった8人のメンバーによる大事なモーメントの共有に、心からお礼を申し上げます。人と人とのゆるやかなつながりが、まるで大樹の下に張りめぐらされている根のように広がり、しっかりと土台を固め、エネルギーを吸い上げ、ワコムという唯一無二の生命体に、命を吹き込んでいくように感じます。数字の羅列からは決して見えないワコム生命体の躍動を、それぞれのストーリーから感じていただけることを切に願います。

代表取締役社長 兼 CEO — **Nobutaka Ide** 井出 信孝

人間が何かをかき始めて約5万年、天文学的な数の物語が表現されてきました。この薄い本でも、「人材」や「人的資本」等の用語には収まりきれない、ひとりひとりの「人間」であるチームメンバーが、各々のかけがえのない物語を共有してくれています。これらの物語は、決して何かの基準で測られたり、評価されたりするものではなく、この薄い本の中で、ただ息づいている、活き活きと。それだけで十分意味深く、とても尊いものなんだ、と強く信じています。読者の皆さま、書き手のチームメンバー、そしてこの薄い本を編集してくれた仲間たちへ、「ありがとう、最高だよ！」

さあ、My Journey at Wacom、始まりです！

感謝と継承

「ありがとう」と言えるときに

「ありがとう」と言うよ

Contents

01 はじめに



Akiko Okuyama (奥山 晶子)
Nobutaka Ide (井出 信孝)

04 MingYan Xu (徐名彦)

TAGLINE 蜕变・Transformation
変容

03 Takahito Uzaki (右崎 敬人)

TAGLINE “Choose Life”

05 Hee-Jung Kim (김희정)

TAGLINE 무리하지마!
無理するな！

06 Wendy Dau (Đậu Thị Thủy Dung)

TAGLINE Better every day
毎日、より良く

08 Christopher Diego

TAGLINE Creating to
Connect
つながるために創る

07 Joss Giffard-Burley

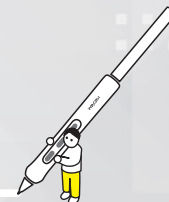
TAGLINE Architecting
the Invisible Medium
of Human Expression
人間表現と技術をつなぐ橋を構築

09 Naoki Watanabe (渡辺 直樹)

TAGLINE 一刀三礼

10 Hiroshi Mizuhashi (水橋 比呂志)

TAGLINE 継続が、成果をつくる





TAGLINE

“Choose Life”

Takahito Uzaki



右崎 敬人

Senior Manager, Business Strategy
Portfolio Management
Creative Experience Unit
Inking Experience Support Group



業績管理のプロフェッショナル。ワコムのカリエティブ事業を数字の面から支える

子供の頃から大好きなギターを忘れられず、悩んだ末に新卒で入った会社を20代半ばに辞め、バンド活動やライブハウスでのアルバイトなどをしていました。そんな中でワコムと出会いました。派遣社員から契約社員を経て正社員となり、既に20年近くが経ちます。

当初の業務はお客様に試用いただくデモ機の貸出し。所属部署の先輩方が真剣にPCと向き合う姿を見て、「なんだかっこいいな。」と感じていました。そして、いつかは自分も同様の仕事に従事することを目標に、エクセルや英語を学び、徐々に近い業務を任せてもらえるようになりました。

また、多少でも理想に近づくことができればと考え、夜間大学院に通い卒業しました。急に仕事ができるようにはなりません、自分自身にポジティブな変化も生まれました。最近では事業回復のタスクフォースや新製品プランニングといった業務にも携わるようになり、

チャレンジングかつ大きなチャンスをもたらしていることに感謝しています。

以前駅のホームで、家電量販店で購入されたばかりの液タブを持ち帰っている方を見かけたことがあります。その佇まいは、買ったばかりのギターと大きな夢を持ち帰っていた過去の自分と重なるものがありました。会社も仕事も、人生も、山あり谷ありますが、その時々で良い選択を行いたいです。

中国のMingYan Xuさんにつながります。生産数量を調整する部門のリーダーであり、在庫管理のプロ。陰でモノの供給を支えています。



Fortune500に名を連ねる欧州系企業3社での勤務経験を経て、ワコムに入社しました。今まで聞いたことのない会社に転職することは、私にとっては挑戦的な決断でした。しかし、その決断の結果、既に11年の年月をワコムで過ごしています。先に述べた3社での勤続年数を既に超え、今もこの旅は続いています。

ワコムで最初に任された大きな仕事のことを、今でも鮮明に覚えています。それは、SCM在庫管理のためシステムの設計および導入でした。以前勤めていた企業では、プロセスは厳格に管理され、細かく統制され、誰もがそのプロセスに従いました。しかし、ワコムでは、自分たちでプロセスやシステムを設計し、柔軟に改善していくことができました。さらに、世界中のプロジェクトメンバーと協働する機会にも恵まれました。

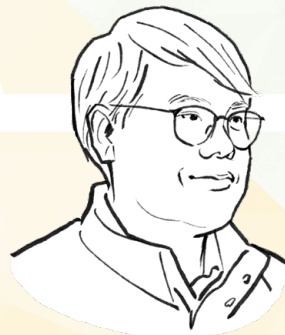
その8年後、再びシステムの更新と最適化にグローバルチームで取り組むことになり、私はプロジェクトリーダーとなっていました。2年間のパンデミック下においてもオンラインでコミュニケーションを続け、新しいシステムの稼働直前に対面で集まり、8年ぶりに貴重な集合写真を撮ることができました。この写真を見るたびにプロジェクトの成功、そして私自身の成長と変化が映っているように感じます。プロセスに做う側から作る側へ、メンバーからリーダーへと自分自身が変化してきました。これからもワコムとの成長の旅路を、心から楽しみにしています。



TAGLINE

蜕变・Transformation

変容



MingYan Xu



徐名彦

Director, Creative Experience Supply & Demand Planning
SCM
Creative Experience Unit
Inking Experience Support Group

中国からワコム製品の需要と供給を見極め、ビジネスを力強く支援

USUIHON



Hee-Jung Kim

김희정



Manager, Customer Quality Support
Technology Solution Unit1
Inking Experience Support Group

Sペンの品質を韓国から支え、
日本、ベトナム、中国の仲間を
フォローする頼れるメンバー



TAGLINE

무리하지마!
無理するな!

日本語を使える仕事を探していた中で、2012年ワコムに入社しました。当時、携帯電話市場をSamsung Galaxy Noteが席捲していました。電子ペンが入っている、革新的な携帯端末でした。その電子ペンはSペンと呼ばれ、この電子ペンが使いたくて携帯電話を買う人がいるくらい、画期的なことでした。

正直、ワコムのことはよく知りませんでしたが、入社後、驚いたことに、ワコムはそのSペンの製造開発を行っている会社で、私はその品質管理の担当となりました。Sペンを作っているワコムは、私にとって自慢でした。

しかし、実際は、一筋縄ではいかない毎日の連続でした。当初は何日も顧客事業所に缶詰になることもありました。日本と韓国の企業文化の違いの中で、その間を取り持つワコム韓国は本当に大変でした。



しばらくはハードな日々が続きましたが、最近はどうもそんなことはありません。長い年月を経て、積み重ねてきたやり方を通じて、お客様をよく理解できるようになりました。同時にSペンの品質もさらに向上、いつの間にかサプライヤーとして優秀賞をいただけるほど、私たちは大きく変化と成長を遂げました。

もし「13年前に戻りたいか?」と聞かれたら、迷いなくYESと答えます。懐かしい当時の経験と思い出に会いたいです。そして、年を重ねた後でも、誇らしく宣言したいです。21世紀初、人類をどきどきさせたGalaxy Noteのエッセンス、Sペンを見事に成功させたと!

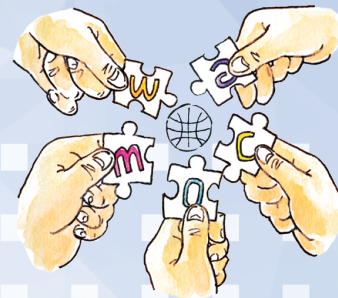
この場を借りてワコムとお客様にお礼を申し上げます。“カムサハムニダ!”

学生時代から、私は「どうしてこんな小さな部品がそれぞれに調和し、世界を変える製品を生み出すのだろうか」と考えていました。この好奇心に突き動かされ、2019年、私はワコムのサードパーティ向けカスタマーサポートの仕事に就き、Sペン製品の品質サポートの担当になりました。基本的な製造基準から、熟練したCustomer Quality Support (CQS) エンジニアに求められる重要な資質に至るまで、電子機器メーカーがどのように機能しているのかを、包括的に学びました。

その後、ワコムがベトナムに正式な法人を設立した際、私は最初のメンバーの一人として、オフィスの開設支援からカスタマーサポート、生産品質サポートまで、多くの役割を担いました。多忙な日々でしたが、私のキャリアにおいて忘れられない時期となりました。

現在、CQS エンジニアとして、私はお客様からの厳しい品質要求に対し、技術やコスト的制約の中、生産スケジュール達成のため、社内と顧客をつなぐ重要な橋渡しの役割を担っています。同僚と協力し、日々努力してきた結果、顧客満足度向上を実現し、チームとともに成長していると感じています。さらに、顧客との関係性も徐々に強固なものに変化しています。

世界各地の優れたリーダーや才能ある同僚たちと共に成長できる環境を幸運に感じています。「Better every day(毎日、より良く)」の精神のもと、これからもお客様から高く評価される、より洗練された革新的な製品づくりに貢献し続けたいと思います。



TAGLINE

**Better
every day**
毎日、より良く



Wendy Dau



Đâu Thị Thùy Dung


Senior Engineer, Customer Quality
Support Vietnam
Production Management Vietnam
Quality Assurance Group

ワコムベトナムを開設当初から
仲間と共に支え、お客様をしっ
かりと現地でサポート



TAGLINE

**Architecting
the Invisible Medium
of Human Expression**
人間表現と技術をつなぐ橋を構築

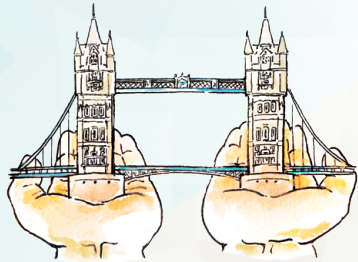
Joss Giffard-Burley 

Director, Ink Ecosystem Architecture
Software Technology and Experience Development
Engineering Group

英国のフロムより、Wacom Yuifyなど、ワコムを未来につなぐソフトウェア技術の開発リーダー

私のワコムでの歩みは、常に自分の可能性を、自分より先に見いだしてくれたリーダーたちの導きによって形づくられてきました。Nick (Nick Mettyear) のもと、技術者としての直感と共に、リーダーシップを磨くことができました。彼は、私自身を「解き放ち」、アーキテクチャチームを立ち上げ、率いる機会を与えてくれました。

しかし、最大の転機は、今から2年前にNickが亡くなった時でした。私は自身の深い責任感から、彼のチームを再び率いることを決意しました。困難な移行期を支えたのは、これまで同僚として築いてきた、メンバー同士のお互いに対する敬意でした。現在、Nickの息子、Tomが同じチームで働いていますが、我々が残すべき真のレガシーは、プログラミングの



コードではなく、人を育てることなのだ日々実感しています。

製品開発においても、視点は変化しました。Wacom Yuifyのサービス開発を通じて、我々はツールではなく、アーティストの創造を支える「信頼の聖域」を築いているのだと気付きました。我々の技術は、想像力と世界をつなぐ、見えな

いと、開発を通じて実感しています。さらに、Kamalesh Patelの教えのもと、エンジニアとしての卓越性は、方程式の片方に過ぎず、グローバルな開発環境において、協働者として機能することが大切であることも大きな気づきでした。今、私は、自身の役割を「橋」と捉え、人と人のつながりを支え、世界中の創造性を支えていきたいと願っています。

TAGLINE

**Creating to
Connect**
つながるために創る



Christopher Diego 

Senior Specialist, Digital Media and
Community Engagement
Business Streams Americas
Creative Experience Unit
Inking Experience Support Group

自身もアーティストとして創作を行い、その経験をもとにコミュニティに寄り添う担い手

私とワコムとの出会いは、デジタルアートについてもっと学びたいと思っていた頃に参加した、米国ポートランドのWacom Experience Centerでのイベントでした。その後、同センターでパートタイムとして働き始め、イラスト、写真、動画制作のスキルを磨く機会に恵まれました。自分がアーティストとして成長すればするほど、コミュニティとのつながりも深まっていくのだと気付いた時期です。

コロナ禍では不安や戸惑いを感じながらもSNSを通じたコミュニケーションへの理解を深め、グローバルなコミュニティともつながることができました。多くの人と出会い、かけがえのない仲間とのつながりも生まれました。ワコムには、アーティストが自分らしくいられ、自分にとって本物だと感じられるコ

ミュニティが生まれる場をつくる、特別な力があります。人々をつなげながら、自分自身もアーティストとして成長し続けられること—それが、私がワコムで働き続けたいと思う大きな理由のひとつです。

現在は、イベント運営などコミュニティ・エンゲージメントを高める活動に取り組みながら、その一員として、一人ひとりに響く表現を届けられるアーティストでありたいと努めています。イラストレーターに語りかけられるよう、毎日Wacom Cintiqを使って描き、フォトグラファーに寄り添うため、Wacom Intuos Proで写真編集を行っています。また、ワコムの魅力を多くの人に届け、そのストーリーを伝えるべく、動画コンテンツの制作も続けています。





私は2013年の入社以来、Intellectual Property (知財部) で働いている弁理士です。

ワコムは、EMR®(電磁誘導方式)の基本特許の頃から、伝統的に「知財に強い会社」。その伝統を守り、志を共にするメンバーと知的財産を積み上げてきましたが、以前は技術を独占できる知財権の可能性に魅了され、「知財を中心に世界を動かす」言わば“天動説”的な考えを持っていたように思います。

しかし、社長の井出さんや各部門の仲間と新しいチャレンジを重ねる過程で、知財という業務も、より大きな組織の仕組みの中で周囲と共に動いている、言わば“知動説”的な捉え方をする方が、より大きな“ワクワクするExperience”を新たに生み出し、その一端を自分も体験できるのだと気付きました。

以前は知財が中心だと感じていたような活動、例えば、知財権調達、ライセンス、訴訟対応、さらには特許庁との議論などでさえも、会社全体の中にある大きな動きの一部であることを認識し、全体が目指す大きな目標に向かい動くことで、より心躍る体験が待っていることを、直々の言葉で、または各部門の方々の仕事ぶりを通じて間接的に教えていただき、全体の中で自分の役割をより自然に果たせるようになったと感じています。

これからも、大きな目標を共有する仲間と共に、その一翼を担う存在として力を尽くしたいと思います。

次の書き手バトンを、過去のEMR常識を突破しながら新たな製品化に向かう心意気を持つ、水橋比呂志さんに渡します。



Naoki Watanabe

渡辺 直樹

Director, Intellectual Property
Intellectual Property

ワコムの“ミスター知財”。その情熱と知識でエンジニアリングとビジネスを支えている

TAGLINE

一刀三礼

TAGLINE

継続が、成果をつくる



私は2021年の入社以来、開発部門であるEMR Technology所属のエンジニアとして業務に従事しています。前職を含め、長年にわたり技術開発部門で働いてきましたが、これまでは新しい技術を生み出し、それを設計部門にリリースするまでが自分の役割であり、そこに集中することが最も重要だと考えていました。

ワコムでも、当初はそのスタンスで仕事をしていましたが、ある技術開発案件で、比較的開発初期の段階から、知財、マーケティング、営業、ソーシングといった他部署での検討が並行して進められていました。技術開発の現場では、技術そのものに集中するあまり、独りよがりな開発になってしまうことも少なくありません。しかし、この案件では、複数の部署が一つの製品を世に送り出すという共通の目的のもと、それぞれの視点で検討を行い、その結果、基礎技術の開発でありながらも、顧客や市場が求める技術内容、そのタイミング、さらにはコスト感までを意識したうえで開発を進めることができました。この経験は、技術開発の進め方そのものに対する考え方を大きく変えました。技術は単独で価値を生むものではなく、事業全体の中で位置づけられて初めて意味を持つものであることを学びました。こうした連携ができるのは、風通しの良いワコムならではの感覚です。

今後は、技術力の向上に加え、他部署との連携や事業全体の視点を常に意識し、より高価値の技術開発を目指したいと考えています。



Hiroshi Mizuhashi

水橋 比呂志

Director, Principal Technologist,
EMR Technology
EMR Module
Engineering Group

新技術の開発と実装に取り組むエンジニア。多くの仲間をリードし、目標達成を目指す

